

◆ 今週のコメント

- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が1例あり、平成18年の1例(男, 35歳, 創傷感染)以来の報告です。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.15で、過去5年平均値(0.76)を上回っており、増加傾向を示しています。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

- ・ 第4週のインフルエンザ定点当たり報告数は26.85で、第3週(14.25)の約2倍となっており、警報発令基準値(30.0)に近づいています。
詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類: 結核3例(喀痰塗抹陽性 なし, 無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 13例(喀痰塗抹陽性 3例, 無症状病原体保有者 1例)】
- ・ 五類: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	26.85	1826
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.10	250
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.15	47
	③ 水痘	1.00	41
	④ 突発性発しん	0.17	7
	⑤ 咽頭結膜熱	0.07	3
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.07	3
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

病原体情報

ありません。

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

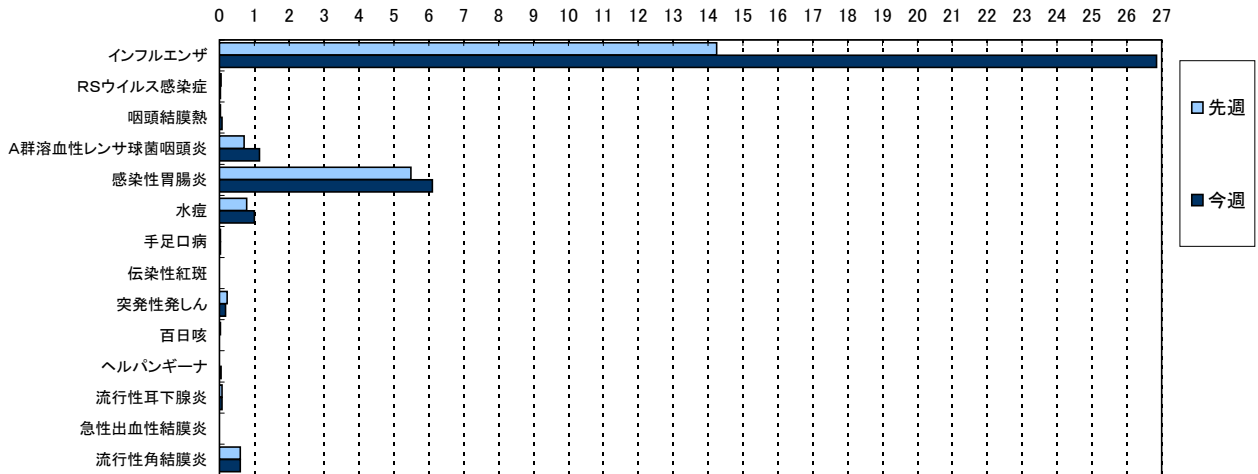
(注) 京都市のデータは、平成21年1月30日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

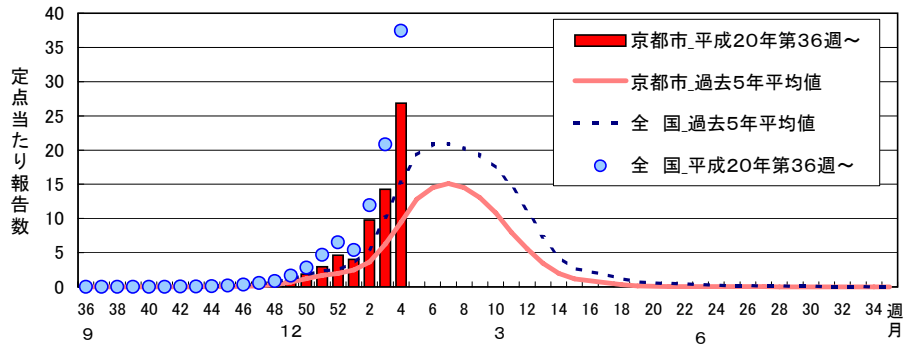
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第4週)と先週(第3週)の定点当たり報告数の比較



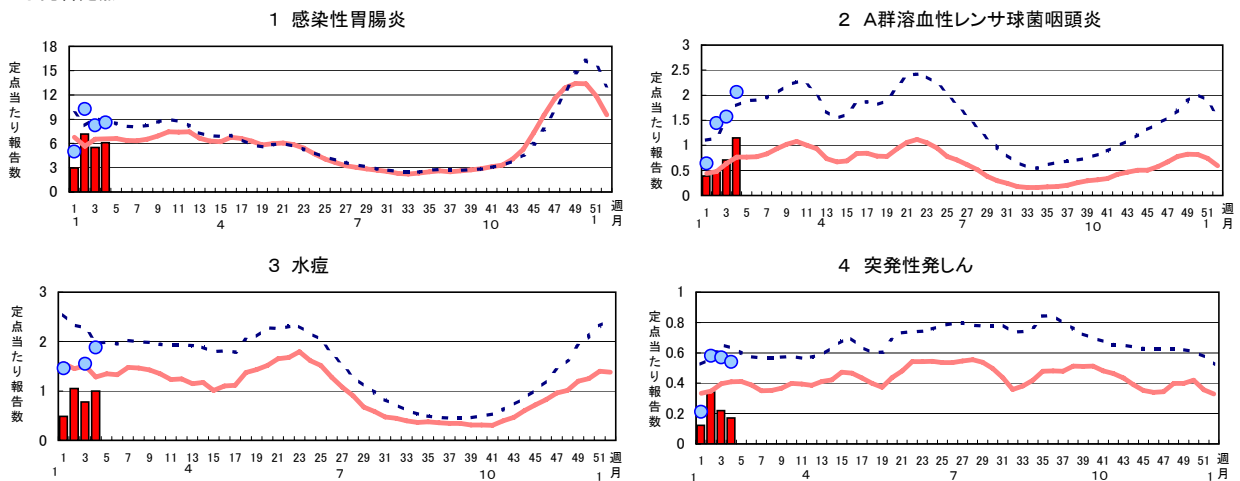
2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
平成20年第52週	314
平成21年第1週	273
第2週	666
第3週	969
第4週	1826
累積報告数 (第36週以降)	4503

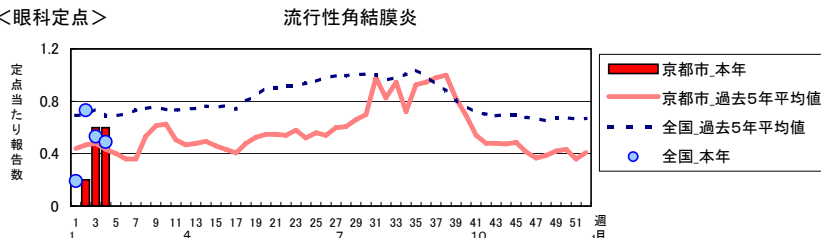


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第4週)のトピックス: <インフルエンザ>

第4週のインフルエンザ定点当たり報告数は26.85で、第3週(14.25)の約2倍となっています。「感染症発生動向調査に基づく流行の警報及び注意報システム情報提供要領」に示された警報発令基準値(30.0)に近づいています。

(参考)

警報対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報	(定点当たり報告数)
	開始基準値	継続基準値	基準値	
インフルエンザ	30	10	10	

* 詳細については、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ (<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Hasseidoko/Levelmap/flu/guide.html>) を御覧ください。

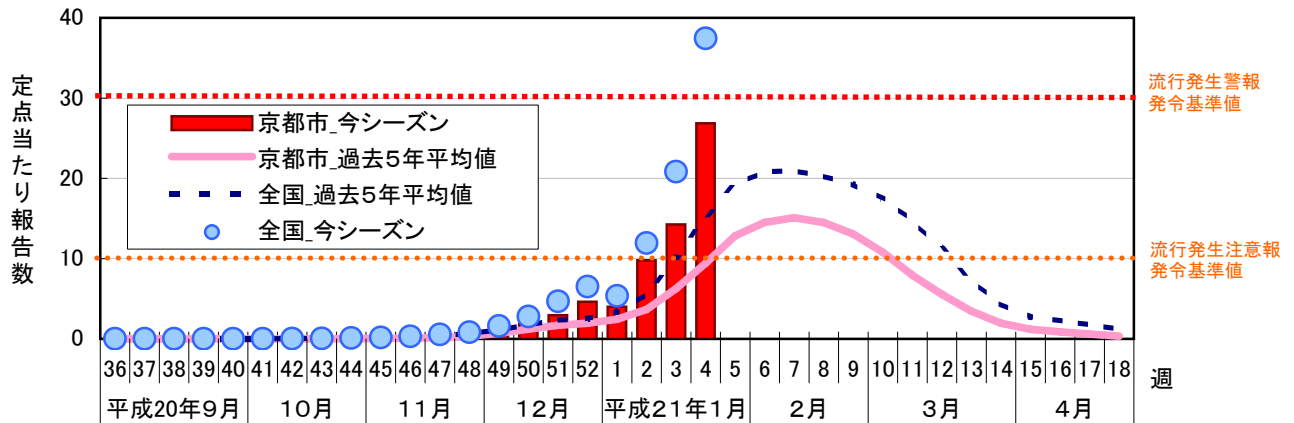
行政区別では、すべての行政区で、前週(第3週)と比べ、定点当たり報告数の増加がみられ、特に、左京区、山科区、南区、西京区では、倍増しています。

年齢階級別割合は、15歳未満が全体の65.9%、15歳以上が34.1%で、15歳未満の割合が第1週(18.7%)から増加しています。今週の全国の15歳未満は72.6%、15歳以上は27.4%です。

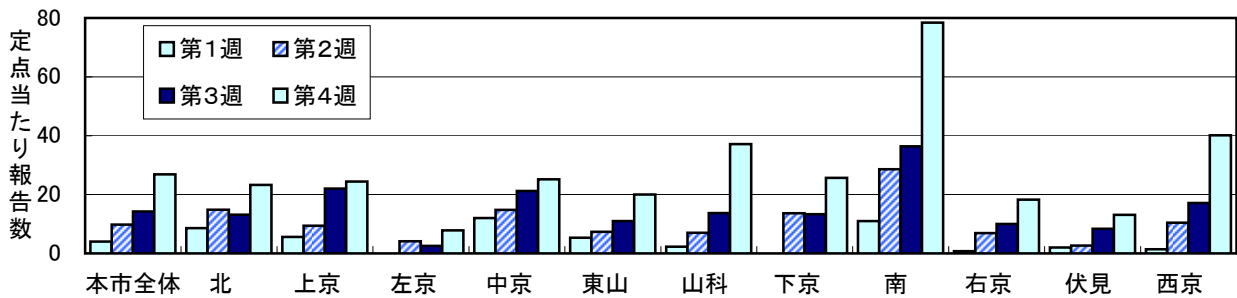
インフルエンザウイルスの平成20年第36週以降の累積報告数は、1月29日現在、京都市では、A(H3)型及びB型が各1件です。また、全国では、A(H1N1)の報告が増加してきており、A(H1)型が664件(49.3%)、A(H3)型が492件、B型が190件検出されています。

国立感染症研究所感染症情報センターのホームページに、都道府県別の最新のインフルエンザウイルス検出情報が掲載されています。(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph-kj.html>)

本市及び全国の定点当たり報告数 推移 (平成20年第36週～)



本市の行政区別 定点当たり報告数 推移 (平成21年第1週～第4週)



年齢階級別割合(15歳未満及び15歳以上)

